

JWNDRRの国際的な ネットワーク



JWNDRR

2021年12月11日

田中由美子

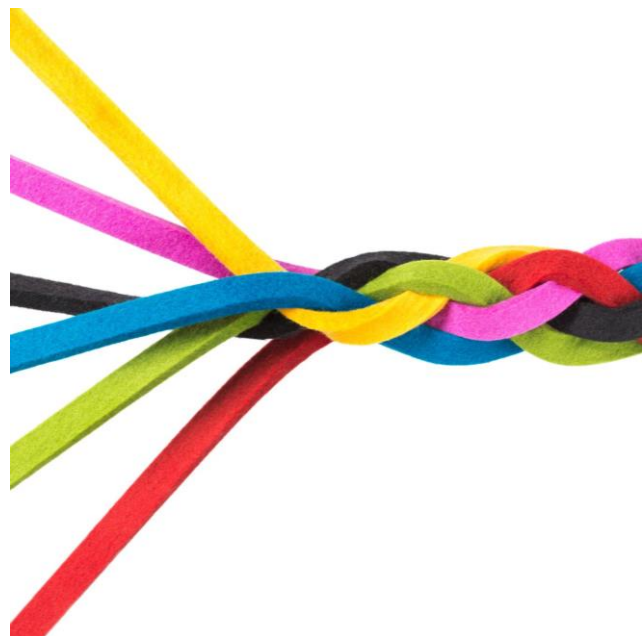
国際的ネットワークの目的と成果

JWNDRRは、国際的なネットワークを構築し、グローバル及びアジア・太平洋地域における防災のジェンダー主流化を進めるために、**国際的ロビイング**をおこなってきた。

その結果、「仙台防災枠組」やアジア・太平洋地域の行動計画が、ジェンダー視点に立って策定され、実施されてきている。

国際会議やシンポジウム等への参加や企画を通じて日本の経験や教訓を世界の女性、防災関係者に発信・共有してきた。

防災に関する世界の「女性メジャーグループ」、アジア太平洋地域の「ジェンダーステークホルダーグループ」とのネットワークを構築。ジェンダー視点に立ったガイダンスノートの作成、UNDRRのアジアの研修モジュールの策定などにも貢献。



(1) 国際的ネットワークへの参加と国際ロビイング

仙台への道:

2012年～2015年

世界の防災に関する「女性メジャーグループ」 との出会い

2012年2月に第56回国連女性の地委員会(CSW56)がニューヨークで開催され、原ひろ子JWNDRR副代表(当時、日本女性監視機構(JAWW)代表として参加)が、出席。

NYで、WEDOのエレノア・ブロムストロム代表(Eleanor Blomstrom)に出会ったことから、JWNDRRとの間に国際的なネットワークが形成されるに至った。

その後、JWNDRRは、仙台で開催される第3回国連世界防災会議(2015)に向けて、国際防災準備会合に参加することとなり、WMG及びアジアのジェンダーグループとのネットワークを構築。

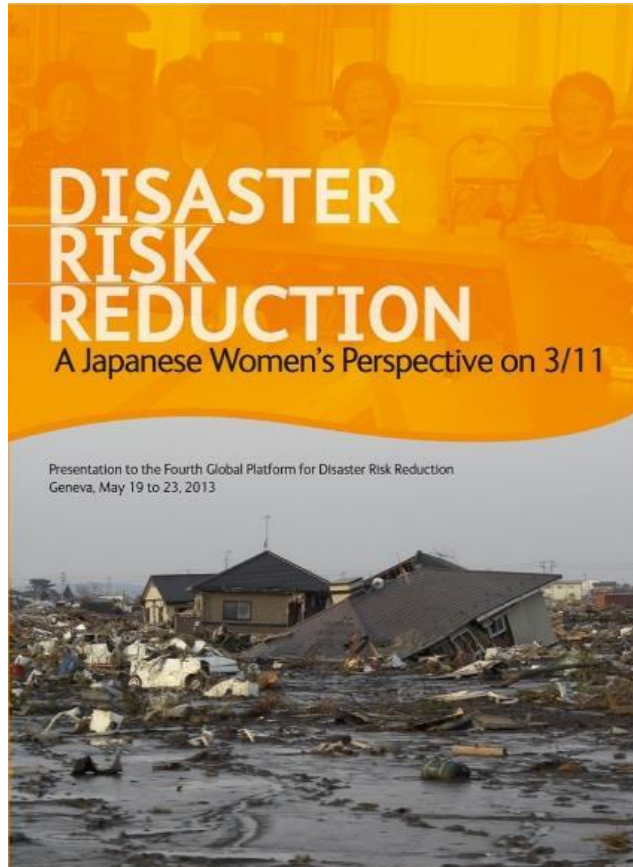
①防災グローバル・プラットフォーム 2013年5月、ジュネーヴ Resilient People, Resilient Planet

3500人が参加。

堂本暁子代表(以下、堂本)がWMGから招待され、初めて防災関連の国連会議に参加。

堂本は、JWNDRR報告書『日本女性の東日本大震災報告(DRR Japan Women's Perspective on 3.11)』(英文)を会場で200部配布した。

この会合では、「ジェンダーと災害ネットワーク(GDN)」代表のモリーン・フォーダム教授(Dr. Maureen Fordham、英国)とも出会い、仙台会議に向けて連携することとなった。



HFA2 Women Making Difference

兵庫行動枠組2－変化を起こす女性たち

UN Women(国連女性機関)、Huairou Commission、UNISDR 主催

2013年5月22日、ジュネーヴ



2013年5月22日に開催された featured event「HFA2 - 変化を起こす女性たち」

災害の予防軽減および復興に対する責任は男女とも平等に負うべきである。

ところが、女性や少女の貢献は、特にコミュニティレベルでは目に見えるものであるのに、政府機関や民間セクター、多数関係者の意思決定から非常に隔離されている。

同時に、災害の影響を受けた女性の真の社会的・経済的負担を測るデータが不足している。

実際、兵庫行動枠組の進捗報告においても、2009～2011年分の情報を提出した70か国のうち62か国が脆弱性や能力に関する男女別の情報を収集していなかった。

② 第6回 アジア防災閣僚級会議

2014年6月24～26日、バンコク



堂本暁子：アジアの女性
リーダーと出会い、女性
主要グループ(WMG)の活
動に参画

JWNDRRは、「仙台提言」の内容、特に防災に関する
意思決定に30%の女性の参加を提案し、それが高く
評価された。

日本政府代表の菅沼大使が「意思決定の場への女
性の参画が重要」と発言



Vishaka Hidellage



Suzette Mitchell

③第3回国連防災世界会議に関する第1回準備会合 (Prep1)

(2014年7月14～15日、ジュネーブ)



市民、女性、民間企業、先住民、若者の5つのメジャーグループが積極的に参加し、発言した。

JWNDRRから堂本が女性メジャーグループに参加。女性の30%参画、トレーニングの必要性などの仙台提言を提示。

(左はM.ワルストラムUNISDR事務局長)

④ 第3回国連防災世界会議に関する第2回 準備会合(Prep2)

(2014年11月17日・18日ジュネーブ)

150か国、50機関、300のNGO、100人の個人が参加し、第3回国連防災世界会議で採択される予定の新しい防災枠組みに関して活発な議論を展開



JWNDRRから堂本暁子、大野曜、ケイト・ストロネルが参加
2014年11月 ジュネーブ

⑤ 第3回国連防災世界会議

(2015年3月14～18日、仙台)



- 187カ国、6,500人以上が全体会議に参加。
- CSOや国際機関による350以上のワークショップ。
- 仙台防災枠組(SFDRR)(2015～2030)を採択

2015年3月18日 エルパーク仙台 JWNDRR主催 国際シンポジウム 「女性の力で変革を」

UN World Conference on Disaster Risk Reduction 2015 Sendai Japan

第3回国連防災世界会議 パブリックフォーラム

女性の力で 変革を

— 男女共同参画と災害リスク削減 —



日時 **2015年3月18日(水)**
13時15分～15時45分

場所 **エルパーク仙台 6階ギャラリーホール**
仙台市青葉区一番町4-11-1
141ビル(仙台三越定禅寺通り側)

講演者
堂本睦子(日本JWNDRR)
シェリル・アンダーソン(米国、ハワイ大学)
モリー・ブォーダム(米国、ノーザンテキサス大学)
池田恵子(日本、静岡大学)



主 催 男女共同参画と災害・復興ネットワーク(JWNDRR)
公益財団法人日本女性学富財団(JAWE)



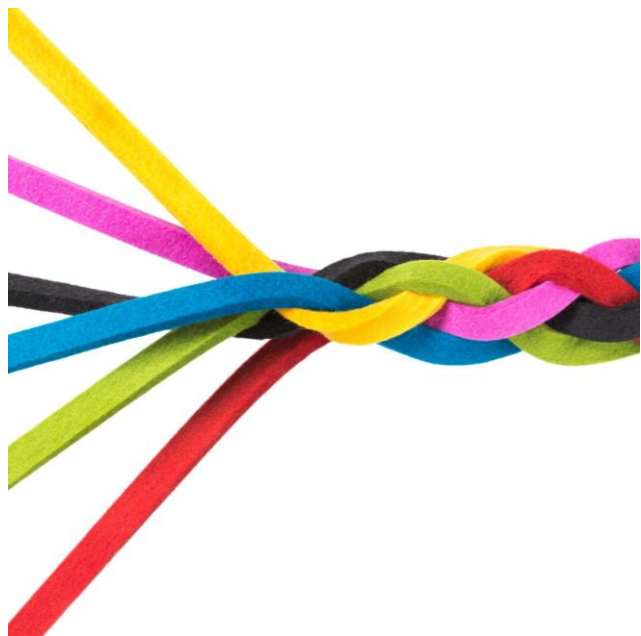
被災地からの事例発表

防災のためのトレーニングプログラム



評価指標の重要性

リレートーク



(2) 国連女性の地位委員会(CSW)における成果

2012年

国連女性の地位委員会における国際ネットワークの成果

2012年の第56回国連女性の地位委員会(CSW56)の優先テーマは、「農林漁村女性のエンパワメントと、貧困や飢えの撲滅および開発、現在の課題における女性の役割」

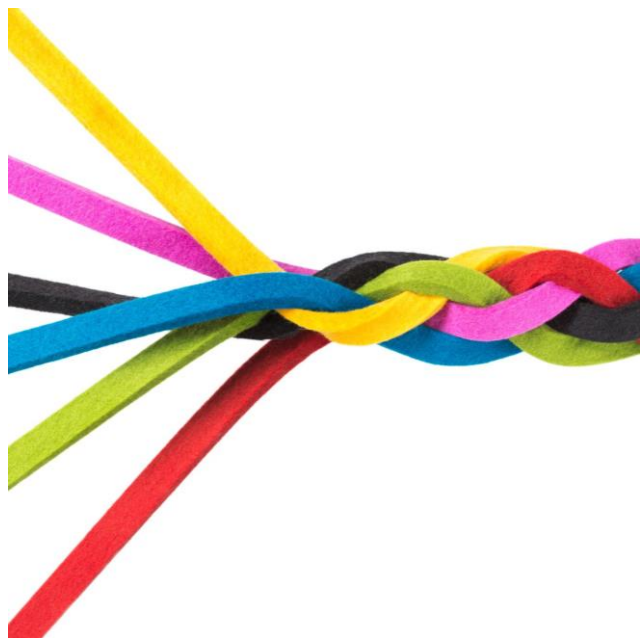
日本のNGO3団体(国際婦人年連絡会、国連NGO国内婦人委員会、日本女性監視機構JAWW)は、サイドイベントとして、東日本大震災で被害を受けた東北地方の農林漁村女性のエンパワメントに焦点を当てたセッションをニューヨークで開催した。

サイドイベントは、「**災害復興とジェンダー**」をテーマとし、国連ノースビルディングで3月1日に開催された。岡島内閣府男女共同参画局長の挨拶に始まり、原ひろ子、青木玲子をはじめとして6人のパネリストが東日本大震災および福島原発後のさまざまな支援活動および課題について発表した(司会は田中正子)。定員を超える90名以上の参加者があり活発な議論が行われ、その様子は多数のメディアで報道された。

CSW56 : 防災とジェンダーの決議案の採択

日本政府は、CSW56において、**決議案「自然災害におけるジェンダー平等と女性のエンパワメント」**を提案し、加盟国の賛同を得て採択された。これは、CSWにおいて日本政府が初めて提出した決議案で、東日本大震災のジェンダーの経験を踏まえることが前文に明記されている。この決議案は、CSWに参加していたWMG関係者からも高く評価された。

これは、日本学術会議と「災害・復興と男女共同参画6.11シンポ」実行委員会が主催した、「『災害・復興と男女共同参画』6.11シンポジウム」の成果などを踏まえて、提出されたもの。



(3)ポスト仙台から未来
に向けて:

2015年以降の活動成果

2015年以降 の国際ネット ワーク

3.1 仙台防災枠組(2015～2030)におけるジェンダー課題

3.2 ジェンダーと防災に関するアジア太平洋地域会議: 2016年5月16～18日、ベトナムのハノイ

3.3 第7回アジア防災閣僚級会議: 2016年11月、インドのニューデリー

3.4 第5回防災グローバルプラットフォーム: 2017年5月24～26日、メキシコのカンクン

3.5 第8回アジア防災閣僚級会議: 2018年7月3～6日、モンゴルのウランバートル

3.6 第6回防災グローバル・プラットフォーム及び第4回世界復興会議: 2019年5月13～17日、ジュネーヴ

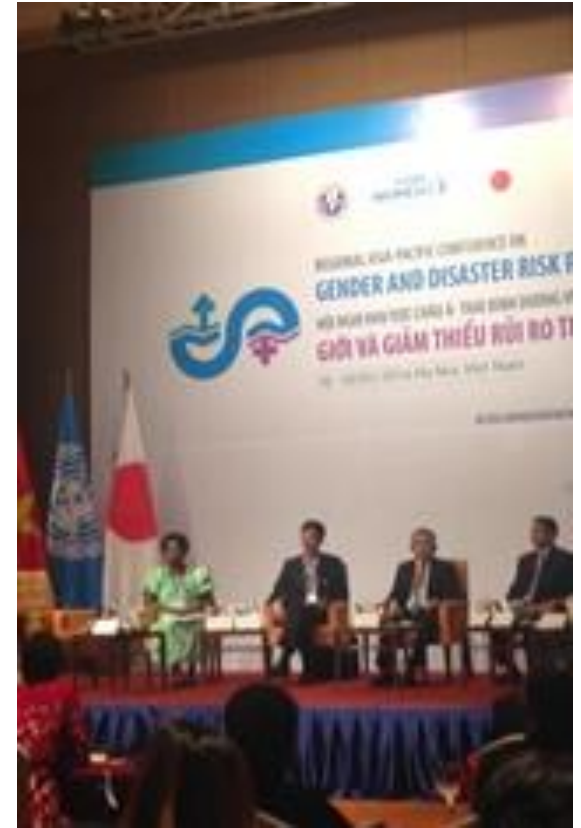
3.1 仙台防災枠組(2015～2030)におけるジェンダー課題

仙台防災枠組の全ての項目がジェンダー視点から十分に検討されたわけではなかった。

それは、依然として防災政策の策定者は男性が中心で、第3回国連防災世界会議に出席した政府代表団の大半は男性であったことも影響している。

結果として、災害における女性のステレオタイプが払拭されず、女性は「脆弱なグループ」であるとの認識のもと、女性に対する保護や配慮といった取組が中心となっている。

女性が災害への備えや災害時に果たしてきた役割や女性の知識や能力を適切に認識し、女性の主体的なリーダーシップと参画を促進するための意識変革や能力強化の具体的な取組については触れていない。



3.2 アジア太平洋地域におけるジェンダーとDRR会合

2016年5月16～18日、日本政府拠出、UN women主催、於ハノイ
参加者： 23か国から300人以上
JWNDRRからの参加： 大野、柳下、田中

ハノイ提言 の採択 2016年5月

多様性・ジェン ダー視点に 立った「仙台防 災枠組」実施を 目指して

仙台枠組みの4つの優先行動をジェン ダー主流化する：

①災害リスクの理解： 性別データの収集・分析・利用・管理

男女別のデータ収集と分析が、女性の脆弱性と役割の適切な認識、指標の策定や具体的な計画の策定等、取組の第一歩となる。

②ジェンダー視点に立ったリスク・ガバナンス 法律や制度 災害対策基本法や復興基本法へのジェンダー視点の取り入れ、災 害対策委員会への女性の参画、ジェンダー視点に立った避難所 チェックリストの作成。

③ジェンダー視点に立ったレジリエンス構築への投資 女性に対する生計向上への支援、生産資源の確保、マイクロファイ ナンス、ジェンダー・多様性の視点に立ったインフラの整備など。

④ジェンダー視点に立った災害予防とBuild Back Better

地域、学校などにおける防災教育、メディアを通じたDRR、女性の安全・安心(暴力対策)など。

依然として女性は「脆弱なグループ」であるとの認識の下、女性に対する保護や配慮といった取組が中心となっているが、女性が災害時に果たしてきた役割や女性の知識や能力を適切に認識し、女性のリーダーシップと参画を促進するための能力強化が必要。

3.3 第7回アジア防災閣僚級会議（ニューデリー、2016年11月）



ジェンダーとDRRのプレコンファレンスとテーマセッション（田中パネリスト）

仙台防災枠組を実現するための**アジア地域行動計画**（2015-2030）に対して、ジェンダー・多様性視点からの提言を作成しドラフト会議で提示、採択された



第5回防災グローバル・プラットフォーム
（メキシコ、2017年5月）



国連ハイレベル会合（ニューヨーク、2017年7月）

アジアのGSHGのガイダンス・ノート(2016)

仙台防災枠組(地域、国家、地方レベル)の実施に向けたアジア地域行動計画において、4つの優先行動に、どのようにジェンダー・多様性の課題を組み込むかについて、「誰が」「何を」「どのように」おこなうべきかを提示した。アジアのジェンダー・ステークホルダー・グループ。

仙台枠組の優先	どの機関が	何を	どのようにおこなうか
1. 災害リスクの理解	例) 地方レベル: 防災委員会、地方政府、 CBO/NGO	性別・年齢別・障害別のデータ 収集・分析をおこない、女性の 脆弱性と役割の適切な認識、指 標の策定や具体的な防災計画 の策定等への取組強化	例) 地方レベル: ジェンダー別等の データ収集を行うための方法・ツ ールの開発
2. リスクのガバナンス強化	例) 国家レベル: 国家防災委員会、女性省、 国家レベルの女性組織	女性の参画・リーダーシップの 強化を組み込んだDRR関連法・ 枠組・計画の強化	例) 国家レベル: 対象となる組織を特 定し、女性の意思決定への参画を増 やすためのインセンティブ供与
3. 災害リスク削減への投資	例) 地方レベル: 防災委員会、地方政府、 CBO/NGO	公共・民間投資(非・構造物)に ジェンダー・社会包括視点の組 み込みを確保	例) 地方レベル: 女性がエンパワーし 持続性のある生計の特定、資源、研 修、技術、インフラ等を提供、
4. より良い復興のための備え	例) 国家レベル: 国家防災委員会、女性省、 国家レベルの女性組織	ジェンダー視点に立った災害へ の備え、対応、復興	例) 国家レベル: 早期警報等の備え の計画段階に、女性や多様なグ ループが持つスキル・能力を活用す るメカニズムの導入

第5回 防災グローバル・プラットフォーム (メキシコ 2017年5月)

防災枠組の進捗を促進し、実施を深化させていくことを目的。

189か国から6000人以上が参加。カンクンのMoon Palace Resortで開催。

採択された議長声明では、災害データベースの構築、途上国における早期警報の向上、ローカルレベルでの災害リスク管理の強化、経済政策における防災の主流化、そして災害リスク管理に関し女性のリーダーシップの強化、など。しかし、全体としてインフラ整・強化が中心。

田中、石渡が参加。

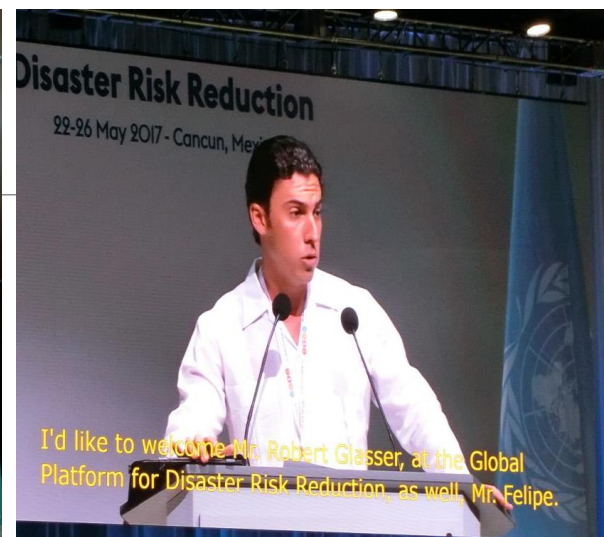
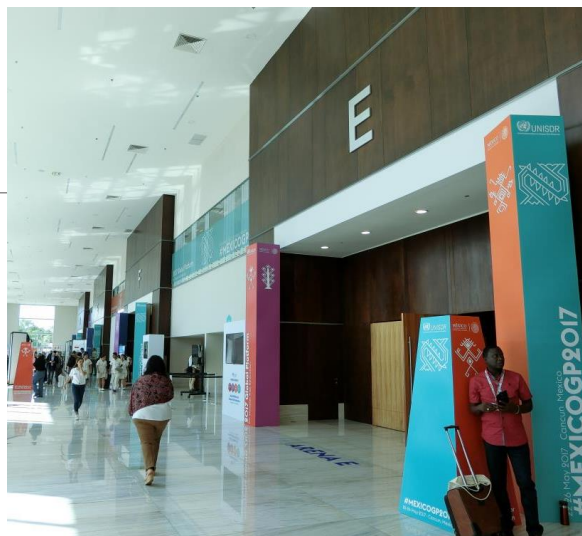


Photo: Y. Tanaka and T. Komino

防災・減災日本 CSOネットワーク(JCC-DRR)、 JICAの展示ブー ス

第5回 防災グローバル・プラットフォーム
メキシコ 2017年5月



3.5 第8回アジア閣僚級防災会

2018年 7月3日～7月5日

- 50か国、1,500団体、3,000人
- 最終日に「ウランバートル宣言」及び2018～2020年の行動計画を含む「仙台防災枠組2015-2030 実施に向けたアジア地域計画」が採択された。
- JWNDRRからの参加者：田中由美子、石渡幹夫、野々口敦子、小林花の4名
- JCC-DRRからは大橋正明氏、小美野剛氏が参加。



ウランバートルでのJWNDRRの活動



- ジェンダー・ステークホルダー・グループ (GSHG) のコンサルテーション
- マーケットプレイスでJWNDRRの資料・報告書の展示
- ジェンダー・テーマ・セッション: GSHG 主催
- イグナイト・ステージ
- オフィシャル・ステートメントの発表
- JWNDRR/JICA共催: 災害復興・DRRにおける女性のエージェンシー・リーダースhipに関するサイドイベント
- UN Women主催の災害復興プロセスにおけるジェンダー分析の有益なツールに関するサイドイベント

採択文書

ウランバートル宣言（28の文章から構成）

DRRのために、権利に基づく、人々を中心とする、すべての社会を包摂するアプローチを提唱

DRRの政策、計画、事業を実施していくためには女性の全面的で平等な参画が不可欠であり、法的枠組の整備と適切な資源（予算・人材）の確保が必要であるとしている。

行動計画（2018－2020）（仙台枠組実施に向けたアジア地域の実施計画）

DRRのためにはジェンダー主流化の促進が必要であり、意思決定過程への女性の全面的かつ平等な参画が重要。

3.6 第6回防災グローバル・プラットフォーム及び第4回世界復興会議: 2019年5月13～17日、ジュネーヴ



- **水鳥真美代表(UNDRR):** 人々中心 (people oriented) ということは、とりもなおさずジェンダーにコミットするということである。
- **世界銀行Ms. Laura Tuck:** スリランカの南部は母系社会だったが、津波の後の土地配分は男性名義、ケララでも災害後ニーズ評価でジェンダー及び文化視点に立った調査が不十分、SDGsのターゲットとの整合性が必要であり、統合的解決が必要。
- **Ms. Shiala Shahid** バングラデシュ: DRRに女性のリーダーシップとジェンダー視点に立つこと (gender-responsive) は不可欠。

復興における不平等なリスク対応 及び女性のリーダーシップ促進



平野みどりDPI日本会議議長（もと
熊本県議）から障害者女性と防災
について発表（UN Women主催）



災害リスク削減と女性のリーダーシップ
（UNDRR, UN Women共催）



性別・年齢別・障害別データ
についてのサイドイベント
（DDR Dynamics, UN Women
共催）



社会的包摂： 障がい者のエンパ ワメントと参画

社会的包摂、特に障がい者のエンパワメントと参画についての討議：

- バングラデシュ政府とJICAの企画。
- パネリストは、US、シドニー大学の障がい研究センター、バングラデシュ政府など。
- 田中由美子：日本におけるジェンダー視点からの取組の好事例を発表するよう依頼され（JICAバングラデシュ事務所）、石巻市北上町の事例を紹介。

JWNDRRのステートメント

5月17日 No.42



内容は以下の通り。ステートメントは3分。

JWNDRRの設立の背景、組織の特徴、活動の目的。

これまでの政策アドボカシーの成果。

今後の政策アドボカシーなどの活動の予定。

政府及び国際機関への要望： ①実証的データに基づくDRR政策の作成のための性別、年齢別、障害別などの統計収集、②防災レジリエンスを高めるための女性のエージェンシー（行為主体性）及びリーダーシップの育成への投資の強化、など。

<https://www.unisdr.org/conference/2019/global-platform/programme/official-statements>

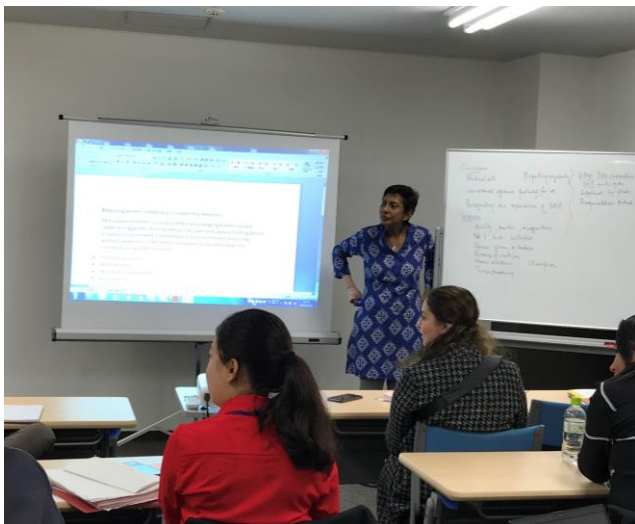


防災Women's Major Group (DRR)、アジアの
GSHGと気候変動女性グループの交流
(ジュネーヴ、2019)



JWNDRRの働きかけでできた研修コースを通じた国際ネットワークの形成

- JWNDRRは、JICAに対して研修の新設のロビイングを行い、その結果、研修コースが発足。
- JICAは、2016年から「ジェンダー・多様性からの災害リスク削減に関する課題別研修」を新設。
- JWNDRRの活動について講義をおこなうとともに、アジアや中南米からの研修生とのネットワークも構築してきた
- 研修では、GSHGのラモナ・ミランダ及びマダヴィ・アリヤバンドウ（もとUNDRRアジア地域事務所事務官）、世界銀行東京防災ハブなどとも連携
- 堂本、船橋がJWNDRRについて講義し、堂本は公開シンポジウムでパネリストを務めてきた。
- 田中、石渡はコースアドバイザー。



仙台防災枠組ではジェンダー・多様性の重要性が認識されることになった。

アジア太平洋行動計画にもジェンダー・多様性の視点に立った取組が、随所に明記された。

しかし、それらの実施が課題。

今後の課題

WMGやGSHGとともに提案してきた全ての施策や取組の実現には、まだほど遠い状況である。施策とその効果的な実施の間には大きな乖離があり、そのギャップを2030年までに埋めていくためには、なお一層、政府や国際機関がジェンダー・多様性の視点に立った防災・減災のための政策・施策を推し進め、そのために必要な予算や投資を配分し、性別・年齢別・障害別統計整備と分析を制度化し、女性や多様なステークホルダーグループが防災・減災のあらゆるレベルの意思決定過程に平等に参画し、リーダーシップを発揮していくことなど必要。

今後の国際会合

2022年3月14～25日：CSW66テーマはCC、環境、防災

2022年5月 防災グローバルプラットフォーム インドネシア・バリ島

2022年8月 TICAD8：チュニジア：CCとジェンダー、GBV

2022年秋 アジア防災閣僚級会議ブリスベン

仙台防災枠組：2030年が達成年

SDGs：2030年が達成年